



# せがさきの風



〒236-0037 横浜市金沢区六浦東三丁目2番1号  
 <TEL>781-2446・2447 <FAX>701-4892  
 <MAIL> y3segasa@edu.city.yokohama.jp  
 <HP> <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/segasaki/>

## 名前を教えてください

～ よく生き合う かかわりづくりを ～

学校長 大塚 ちあり

かつて、私が2年生を担当していた時のことです。

5月に国語の「たんぼぼのちえ」という説明文の学習に取り組みました。「たんぼぼには、タネを太らせるために、花の軸を休ませる知恵や、落下傘のような綿毛でタネを遠くへとばすための知恵や、天気の良い日に軸を伸ばしてタネをとばす知恵がある。等々」ということを学んだ子どもたちが、たんぼぼの知恵もすごいけれど、「自分たちのまちにも、いろんな知恵がたくさんある。」「知恵みつけ探検隊になって、自分たちのまちの知恵を見つけに行きたい。」と、国語の学習がきっかけとなって、まち探検に出かけたことがありました。

春のまちは、魅力的でした。個人の家の庭先には愛らしい花がたくさん咲いていたり、商店街にはスプリングセール旗がはためいていたり、公園も雑草がきれいに抜き取られ、たんぼぼや木々の若葉が美しく輝いていました。八百屋の店先には、春の野菜や果物。魚屋の店先には春の魚（魚にも旬の魚があることにビックリしていました。）が並んでいました。子どもたちは、まちたんけんに出かける度に、自分たちのまちが春まただ中で、まちの人たちが「春」を様々な工夫して楽しんでいることに気付くなど、様々なまちの人たちの知恵を発見していました。探検を繰り返すことで、子どもたちは「まちの知恵」は、そこに暮らす一人ひとりの人たちが考え出していることや、だれかのために考えた知恵だったり、もっと楽しくなるような知恵だったり、知恵には人の思いや願いが込められていることにも気づいていきました。

ある日、探検から戻った数人の子どもたちが夢中で自分の名前を書いた名刺を作り始めました。次の探検に持っていくというのです。わけを聞くと、学区のパン屋さんを探検したときに桜パンやイチゴパンなどパン屋さんの知恵を見つけたので、パン屋のおばさんにインタビューをしたら、店の奥にいるおじさんが季節に合わせたパンを工夫して作っていることを教えてくれたそうです。一人の子が「そのおじさんの名前は何かというのですか？名前を教えてください。」と言ったところ、パン屋のおばさんが涙ぐんで「あらまあ。たくさん探検隊が毎年訪ねてきてくれるけれど、おじさんの名前を尋ねてくれたのはあなたが初めてよ。嬉しいわ。」と言って、「お父さん」と、奥にいらした「木村ごんのすけ（仮）さん」を呼んでくださったそうです。木村ごんのすけさんは、「おじさんの名前を聞いてくれたのは、君かい？嬉しいね。」「君の名前も教えてほしいな。」と、自分も名前を尋ねてもらった話を、目を輝かせてしてくれました。その日から、クラスの子どもたちにとって「パン屋のおじさん」という呼び名は「パン屋のごんのすけさん」になり、「パン屋さんのパン」は、「ごんのすけさんとよしえさんのパン」になりました。

その日の探検日記に「パン屋さんで『名前を教えてください』と言ったら、おばさんが涙を流して喜んでくれてビックリしました。ぼくもごんのすけさんに『名前を教えてください。』と言われて、とってもうれしかったです。今度パンを買いに行きたいです。名刺も渡してぼくの名前も覚えてほしいです。」と書いていたことが、今でも忘れられません。

授業を通してまちの人と出会い、その出会いが、授業を超えて繋がっていくことの素晴らしさを、私は子どもに教えてもらいました。

「自分のまちに、自分の名前を呼んでくれる人がいる！名前を呼べば応えてくれる人がいる！」という実感は、自分のまちに対する自尊感情を高め、やがてそれは、「自分のまちで、他の人とよく生き合う」ための土台となっていくのではないかと思います。

これから1年生も2年生も生活科でまち探検にでかけます。3年生～6年生は総合的な学習の時間を通して、人との出会いを大事にしながら「まちを知り、まちに親しみ、まちでたくましく生きる力の育成をめざした学習」に取り組みます。どの学年の子どもたちも、出会った人とのかかわりを、授業を通して少しずつ積み重ね、やがては、授業を超えた豊かなかかわりへと繋がってほしいと、心から願っています。